

受 章 者 紹 介



瑞宝双光章
(高齢者叙勲)
すとう まさひで
須藤 省英さん

元下妻市立下妻小学校長
(88歳・前河原)

昭和28年3月に県立水海道第一学校の助教諭として赴任。その後、茨城大学第3学年に編入。卒業後、昭和32年に下妻中学校教諭として赴任されて以来、近隣中学校や県西教育事務所に勤務されました。その後は八千代町立八千代第一中学校校長、下妻市立下妻小学校校長を歴任され平成5年3月に定年退職されるまで38年間教職を務め、児童生徒の健全育成に力を注ぎ、積極的な学校経営に努め、教育の充実発展に貢献されました。「この度の受章は、多くの方々のお力添えにより精一杯努力し頑張ってきました。皆さまに深く感謝いたします」。

体力向上 問 都市整備課 ☎45-8128 FAX43-2945

スラックライン体験会を開催

9月13日、Waiwaiドームしもつまでスラックライン無料体験会が開催されました。

スラックラインとは、細いベルト状のラインの上でバランスを楽しむスポーツで、綱渡りとトランポリンを合わせた様な特徴があります。

当日は家族連れなどが参加し、綱の上でバランスを取ることに四苦八苦されていました。

家族で参加した小学2年生の幸田帆加さんは、「バランス取るのが難しかったけど楽しかった。最後まで渡り切れました」と話しました。

また、インストラクターとして協力した株式会社NEXUSの梅原博さんは、「歩くという単純な動きで達成感が味わえ、やればできることを感じることが出来ますよ」と話しました。



スラックラインを体験する参加者の小学生

地域包括支援 問 介護保険課 ☎43-8264 FAX30-0011

認知症の正しい理解を
認知症サポーター養成講座を開催



熱心に講義に耳を傾ける参加者

9月10日、イオンモール下妻で、認知症サポーター養成講座が開催されました。

この講座は、認知症に関する正しい知識と理解をもち、認知症の本人と家族が必要としている支援をできる範囲で行う「認知症サポーター」を養成することで、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進めることを目的として、八千代町と合同で開催しました。当日は、認知症について正しい知識を学ぶための講義や、認知症の方への好ましい対応の方法を寸劇形式で実演しました。また、希望者には認知症相談を実施しました。

参加者の一人は、「わが身にもあり得る認知症。自分以外に家族、周りの方に少しでもこのような知識が役に立てられればと思います」と話しました。

体力向上 問 都市整備課 ☎45-8128 FAX43-2945

小学生向け運動遊び
「放課後PLAYパーク」が始まりました



全力で駆け抜ける参加者の小学生

9月20日に始まった放課後PLAYパークは、スポーツの基礎となる体力運動能力作りとスポーツの楽しさや基礎を知るための企画です。

第1回目の今回は、参加した子どもたちの体力測定などを行い、第2回以降、体力の向上のためのトレーニングを実施していく予定です。

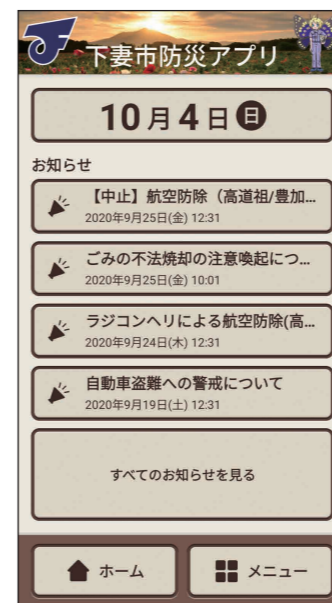
小学4年生のお子さんが参加した野寺直美さんは、「インターネット漬けの毎日なので、外で遊ぶ楽しさを知ってほしい」と話しました。

放課後PLAYパークは、参加は無料。筑波大学体育系の専門家の方々などをインストラクターとして招き、11月まで全10回の予定で、Waiwaiドームしもつまなどを会場として開催予定です。

※これから参加を希望する方は、必ずお問い合わせください

防災 問 消防交通課 ☎43-2119 FAX43-4214

スマホへのダウンロードはお済みですか? 下妻市防災アプリ



ホーム画面



メニュー画面



避難所が開設された場合、アイコンが緑色で表示されます。

■下妻市防災アプリでできることを紹介します。

- 防災行政無線で放送した内容を文面・音声で確認できます。
※火災報は配信できませんので、西南広域消防本部の「火災情報メール」・touroku@seinankasai.jpdata.netに空メールを送信して指示に従って登録してください
- 防災情報
 - ・防災マップ(各種ハザードマップ)
 - ・河川水位(川の防災情報などにリンク)など
- 災害情報(平時は「災害無し」で表示)
- 避難所情報 ○連絡先 など

※アプリのダウンロードは下記からお願いします



高齢福祉 問 介護保険課 ☎45-8123 FAX30-0011

末長い健康と長寿を「百歳のお祝い」

菊池市長は9月23日、敬老の日にちなみ、令和2年度中に100歳を迎える高齢者のうち、在宅で生活する2人を訪問し、長寿を祝福しました。

市内で今年度100歳以上になる方は40人。市長は、お祝いの言葉とともに内閣総理大臣からの祝い状や記念品を手渡しました。

今年度中に100歳を迎える野尻仁さん(大宝)は「国内最高齢を目指して頑張ります」と元気に話してくれました。



祝い状を受け取る野尻さん